

## 令和 5 (2023) 年度に係る 業務の実績に関する報告書について (概要版)

人口減少、高齢化及び産業構造の変化といった課題に直面する中、第 4 期中期計画においては、本学のより一層の発展に向け、教育・研究・地域（社会）貢献・管理運営の各分野で変革を進めることとしている。第 4 期中期計画の初年度にあたる令和 5 (2023) 年度は、今後 6 年間の中期計画達成に向けた取組を着実に進めるうえで重要な年度であり、理事長・学長のリーダーシップの下、中期計画 45 項目全てに着手し、積極的に取り組んだ。

### 1 業務の実績に関する報告書の作成

令和 5 (2023) 年度計画に係る事業の実績について、内部質保証推進室で各部局及び事務局各課からの報告に基づいて取りまとめ、その進行状況を下記の 4 段階で評価し、業務の実績に関する報告書を作成した。

＜年度計画の進行状況＞

- IV 年度計画を上回って実施している
- III 年度計画を概ね順調に実施している
- II 年度計画を十分に実施できていない
- I 年度計画を実施していない

### 2 自己点検・評価結果の概要

令和 5 (2023) 年度に係る自己点検・評価結果は以下のとおりである。2 頁以降に、IV 評価とした項目の実施状況を示す。

＜令和 5 (2023) 年度計画の自己点検・評価結果＞

分野	中期計画 項目数	令和 5 (2023) 年度計画における項目数及び進行状況			
		IV 評価	III 評価	II 評価	I 評価
教育	17	3	14	0	0
研究	6	1	5	0	0
社会貢献	7	0	7	0	0
管理運営	15	1	14	0	0
計	45	5 (11.1%)	40 (88.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

【IV評価の項目】

No	年度計画の内容	実施状況（抜粋）
教育 3	<p><b>〔各学部等の特色ある取組の推進〕</b> 各学部・研究科、基盤教育センターは、本学の設置理念、学部学科等の設置の目的・強みを踏まえ、特色のある取組を推進する。 ＜取組内容・目標＞</p> <p>1. 〈基盤教育センターにおける英語教育〉 基盤教育センターは、到達度別クラス編成や少人数教育など授業内容に適した教育方法の実践、令和3（2021）年度に導入したeラーニングソフト等の活用、TOEIC等公的資格の単位認定を行う。 〔2年次修了時にTOEIC 470点相当以上の到達者の割合50%以上〕</p> <p>2. 〈基盤教育センターにおける地域科目〉 基盤教育センター及び地域戦略研究所において、地域で活躍する行政担当者や企業の実務家等を招聘し、開講する。 〔地域科目の開講数10以上かつ実務家招へい人数80人以上〕</p> <p>3. 〈外国語学部英米学科における語学教育〉 英米学科において、学生の学習意欲を喚起する英語学習講演会、対面やオンラインによる学習指導を実施するほか、英語の修得度に応じてよりレベルの高い科目を受講できる「英語集中プログラム」を実施する。 〔卒業までにTOEIC 730点相当以上の到達者の割合70%以上〕</p> <p>4. 〈外国語学部中国学科における語学教育〉 中国学科においては、1～3年次の中国語集中科目である初中上級の総合科目・会話科目・作文・リスニング・講読等により、基礎的かつ総合的な中国語能力を育成するほか、学生の学習意欲を喚起するため、中国語検定過去問WEBの活用や外部講師による各種講義・講演等を実施する。 〔卒業までに中国語検定2級相当レベル以上の到達者50%以上〕</p>	<p><b>【基盤教育における語学教育】</b> 基盤教育センターは、<u>到達度別クラス編成や少人数教育、TOEICなど公的資格の単位認定への活用による英語教育を推進</u>した。 学内でTOEIC試験を実施し、引き続きTOEICのスコア管理を徹底した。（北方：オンライン実施、ひびきの：対面実施） <u>2年修了時のTOEIC470点相当以上到達者の割合は、北方キャンパスで76.2%、ひびきのキャンパスで63.4%となり、全学では74.0%</u>であった。</p> <p><b>【基盤教育における地域科目の開講】</b> 2023年度は<u>地域科目を12科目開講し、受講者数は3,263名（前年度2,589名）と、多くの受講者を確保</u>した。 <u>実務家教員には、市役所担当部局の職員、地元企業経営者、NPO職員等、延べ107名（前年度92名）を講師として招聘し、実務家の知見から講義を行った。</u></p> <p><b>【TOEIC受験対策とスコア管理の徹底】</b> 外国語学部英米学科は、<u>オンラインTOEICの受験機会の提供やオンライン学習ツール（リアリーングリッシュ）を利用した受験対策を実施</u>するとともに、ゼミ担当教員を通じて、受験の奨励及びスコア管理を徹底した。 これらの取組の結果、<u>卒業時におけるTOEIC 730点相当以上到達者の割合は80.9%</u>であった。</p> <p><b>【中国語能力育成の取組】</b> 外国語学部中国学科は、引き続き、教育課程において1～3年次の中国語集中科目である初中上級の総合科目・会話科目・作文・リスニング・講読などにより、基礎的かつ総合的な中国語能力を育成した。また、中国語の修得を補完するための取組として、<u>中国語検定過去問WEBを活用し、中国語検定の対策に継続して取り組んだ。中国語検定試験2級相当以上の到達者の割合は、58.7%</u>であった。</p>

		<p>&lt;Ⅳ評価とする理由&gt;</p> <p>基盤教育センターにおける語学教育では、到達度別クラス編成や少人数教育等により、<u>全学で2年次修了時にTOEIC470点相当以上の到達者の割合が74.0%と目標である50%を上回った。</u></p> <p>また、同センターで、<u>地域科目（全12科目）を開講し、受講者数は過去最も多い3,263名の受講者を確保した。</u>さらに、<u>多様な実務家教員を107名と多く招聘し、実務家の見地から地域の魅力を学ぶ機会を提供することができた。</u></p> <p>外国語学部では、<u>卒業までにTOEIC 730点相当以上の到達者の割合が80.9%と目標である70%を超えるとともに、卒業までに中国語検定2級相当レベル以上の到達者の割合が58.7%と目標である50%を超えた。</u></p>
<p>教育 5</p>	<p>〔(仮) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム〕</p> <p>令和6（2024）年度の学部等共通プログラム「(仮) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」開設に向け、令和5（2023）年度に開講する「社会を動かすデータ活用」及び「社会で生きるAI技術」の2科目の受講状況と学生の理解度等を把握しつつ、プログラムを作成する。併せて、プログラム開設にあたって必要な規程等の整備や学内外への広報を行う。</p> <p>国際環境工学部においては、令和7（2025）年度からの新教育課程におけるデータサイエンス関連科目の配置に向けて検討を行うとともに、基盤教育科目「環境問題特別講義」及び「環境問題事例研究」の2科目において、「国連統計データベースの扱い方」の中でも環境・SDGsに関連するデータサイエンスの教育コンテンツについて学ぶ。</p> <p>「(仮) データサイエンスセンター」設置に向け、設置準備委員会を設置のうえ、実施体制の検討や関係部局間の調整、規程等の整備を行い、同センターを設置する。</p>	<p>【文部科学省 数理・データサイエンス・AI認定制度】</p> <p>2022年度に開講した<u>基盤教育科目「データサイエンス入門」を文部科学省の数理・データサイエンス・AI認定制度（リテラシーレベル）に申請し、認定を受けた。</u></p> <p>また、文部科学省の数理・データサイエンス・AI認定制度（応用基礎レベル）のモデルカリキュラムに準拠した「社会を動かすデータ活用」、「社会で生きるAI技術」の2科目を開講し、当該科目の受講状況と学生の理解度等を把握するため、授業評価アンケート等を実施し、数理・データサイエンス・AI認定制度（応用基礎レベル）への申請に向けて準備を行った。</p> <p>【新学部の設置準備】</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育の推進に向け、デジタル人材を育成する<u>新たな学部の開設を目指し、令和5年5月に、(独) 大学改革支援・学位授与機構の助成事業「令和5年度大学・高専機能強化支援事業（学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）」に申請し、7月に対象校に選定された。</u>（学部名称：(仮称) 情報イノベーション学部）</p> <p>&lt;Ⅳ評価とする理由&gt;</p> <p>文部科学省の認定制度の活用に加え、<u>新たな学部を設置することにより、数理・データサイエンス・AI教育の一層の推進に向けて取り組んでいるため、Ⅳ評価とする。</u></p>

No	年度計画の内容	実施状況（抜粋）												
教育 14	<p><b>〔就職支援の充実〕</b></p> <p>社会で求められる人材を輩出するため、引き続き、基盤教育においてキャリア科目を開講するほか、各学部・学群ごとの特性に応じ、各学部等におけるキャリア教育を実施する。加えて、早期に就職活動を意識し、職業理解を深めてもらうため、「低学年向けプレ・インターンシップガイダンス」を開催するほか、企業とのパイプを強化し、大学独自のインターンシップ先を開拓するとともに、九州インターンシップ推進協議会等のネットワークを活用することで、多様なインターンシップの機会を提供し、学生の参加を促進する。また、引き続き、就職ガイダンスや就職支援対策講座、企業説明会等のイベントを、オンラインも活用しながら実施するほか、語学力や学部・研究科で学んだことを活かし、国際機関や外資系企業などを含めたグローバル企業で活躍したい学生を対象とした、仕事の内容や働き方に関するセミナーやガイダンスを行う。</p> <p><b>〔就職率※：全国平均を上回る就職率〕</b></p> <p>※ 就職希望者に占める就職者の割合のこと</p>	<p>基盤教育において、ライフ・デザイン科目と地域科目に配置しているキャリア系科目を実施するとともに各学部・学群においてキャリア教育を行った。</p> <p>就職活動が年々早期化傾向にあることから、<b>早い時期から就職活動を意識し、職業理解を深めてもらうため、4月に夏季インターンシップガイダンスを開催</b>した。</p> <p>また、キャリアセンター職員と教員及びキャリアカウンセラーが三位一体となり、<b>学生の状況把握と個別支援を実施</b>することで、学生が最終的に満足できる結果につながった。</p> <p>その結果、2023年度学部卒業生の<b>就職率（就職希望者に占める就職者の割合）は、2022年度より0.1ポイント高い99.4%</b>で、全国平均の98.1%を1.3ポイント上回る結果となった。（1989年度の調査開始以降、過去最高を更新）</p> <p>また、<b>実就職率も90.2%</b>と、2022年度より2.0ポイントアップした。</p> <p>&lt;就職率・実就職率の推移&gt; ※（ ）内は全国就職率</p> <table border="1" data-bbox="1055 922 1977 1070"> <thead> <tr> <th></th> <th>2021年度</th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職率</td> <td>98.7% (95.8%)</td> <td>99.3% (97.3%)</td> <td>99.4% (98.1%)</td> </tr> <tr> <td>実就職率</td> <td>88.2% (85.0%)</td> <td>88.2% (86.7%)</td> <td>90.2% (-)</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;IV評価とする理由&gt;</p> <p>近年、就職活動が早期化しており、低学年のうちからキャリア教育やガイダンス等で自身の進路を考える機会を設け、特に夏季インターンシップガイダンスでは、1年生の参加者数が昨年度を上回る結果となった。また、キャリアセンター職員と教員及びキャリアカウンセラーが三位一体となり、学生の状況把握と個別支援を実施することで、学生が最終的に満足できる結果につながった。その結果、<b>就職率は1989年度の調査開始以降、過去最高を更新し、全国平均を上回る結果となったため、IV評価とする。</b></p>		2021年度	2022年度	2023年度	就職率	98.7% (95.8%)	99.3% (97.3%)	99.4% (98.1%)	実就職率	88.2% (85.0%)	88.2% (86.7%)	90.2% (-)
	2021年度	2022年度	2023年度											
就職率	98.7% (95.8%)	99.3% (97.3%)	99.4% (98.1%)											
実就職率	88.2% (85.0%)	88.2% (86.7%)	90.2% (-)											

No	年度計画の内容	実施状況（抜粋）												
研究 21	<p><b>【地域企業との連携推進】</b> デジタルツインなどのAI・ロボット技術を駆使した地域企業のDX、生産性向上に資する研究を推進するほか、その社会実装のため、地域のDXを進める中核的な企業・機関との連携を進める。また、医療機関や介護施設等と連携し、介護福祉支援技術の開発を進めるとともに、行政機関や消防機関等と連携した消防・防災支援に関する研究を推進するほか、行政機関・消防機関等の研究推進に資するための研修を実施する。加えて、地域企業と連携した研究の推進のため、北九州産業学術推進機構との連携を強化する。</p> <p><b>【市内企業との共同・受託研究：延べ10件以上】</b></p>	<p>市内・地元企業との共同研究を積極的に推進することで、<b>延べ20件の共同研究を実施し、目標である10件を大きく上回った。</b> (20件 34,442千円 (※共同研究講座3件6,500千円を含む))</p> <p><b>&lt;IV評価とする理由&gt;</b> 市内・地元企業との共同研究を積極的に推進することで、<b>延べ20件の共同研究を実施し、目標である10件を大きく上回ったため、IV評価とする。</b></p>												
管理 運営 39	<p><b>【外部資金の獲得】</b> 外部資金の獲得に向けて、科研費獲得向上プロジェクトを実施するほか、URAによる外部研究資金申請のフォローアップを充実するとともに、企業からの技術相談に対する学術コンサルティング制度を新たに構築する。また、教員評価等を活用した研究業績のインセンティブ制度を新たに検討し、制度設計を進める。加えて、研究成果等の発信のため、研究者情報データベースを引き続き公開するとともに、環境技術研究所ビジョン2023の策定及び同研究所機関誌「環境『創』」の刷新を行い、企業等へ広く配布するほか、研究シーズのPRのあり方について検討し、大学ホームページやデータベース等を活用して発信を行う。</p> <p><b>【外部研究資金等6億円以上の獲得】</b></p>	<p>2023年度は、<b>文部科学省のリカレント事業（everiPro産業DXリスキングプログラム及びeveriGo WEB系プログラマ・DX人材育成プログラム）を補助事業（2022年度は受託事業）として受け入れたため、受託事業収入が減少し、補助金収入が増加した。</b>また、<b>公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）の新規事業に4件採択されたことも補助金収入の増加に寄与した。</b></p> <p><b>&lt;外部資金実績&gt;</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2021年度</th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>300件</td> <td>318件</td> <td>325件</td> </tr> <tr> <td>獲得額</td> <td>750百万円</td> <td>743百万円</td> <td>706百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>&lt;IV評価とする理由&gt;</b> 2023年度は、文部科学省のリカレント事業（everiPro産業DXリスキングプログラム及びeveriGo WEB系プログラマ・DX人材育成プログラム）や公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）の新規事業への採択により、多くの補助金を獲得した。<b>実績額は約7億円と数値目標の6億円を大きく上回ったため、IV評価とする。</b></p>		2021年度	2022年度	2023年度	件数	300件	318件	325件	獲得額	750百万円	743百万円	706百万円
	2021年度	2022年度	2023年度											
件数	300件	318件	325件											
獲得額	750百万円	743百万円	706百万円											